

余計なお世話・・・、にもならないが、やっぱり演劇をやる人は演劇をやったらいと思う。思っている。今はこんな状況だから、との意見はすごく分かるが、色々工夫すれば出来ないこともない。実際にやっていて、そう思う。色々工夫してまで、面倒掛けてまで、との意見も分かるが、今までだって色々工夫して何とかやってきたのが演劇ではなかったか、と少し意地悪な気持ちも込めて思う。これまでも色々工夫しないと続けて来られなかったのではないかと。そりゃ今のコレは、状況の種類も規模も何かも違うが、状況に背中を押してもらったことなんかない、というのは変わらない。今までも「私」は、状況ってヤツを秤に掛けて、色々工夫してやってきたに過ぎないではないか。結局は、やるか、やらないか、やりたいものを探すか、探さないか、とにかく動くか、動かないか、それだけの問題だと思う。思った。今、最近、この頃、演劇が出来ていない人を思って、演劇の価値について考えることがある。それが多い。演劇にやる意味ある？とか。もちろん、すべての人にとって、演劇をやる意味なんてない。演劇の価値とは、演劇をやる人の内側に、その人個人の歴史や野心や、仕方なさ、あるいは、やむにやまれぬ事情の中にある。だから、それだから、演劇をやる人には演劇をやる意味は確かにあると考えた。何をしても、ある種の仕方なさに背中を押されないと、ってことは確かにあるし。だから、これ、意味、必ずあるって。外からでは分からないが、やってみれば解る何か。個の中で演劇の価値は高く、だから、どうにかこうにか工夫して、練習だけでもいいし、発声だけでもいいから、動けばいいと、僕は僕なりに勝手に思っている。私見だけど。押し付けるつもりなんて、ある。それともみんな、僕が知らないだけで、陰で演劇をやったりしているのだろうか？ ならばすごく嬉しいけど。ほっとするけど。演劇の価値は演劇をやる人には巨大だし崇高だし美しいことだと僕は思うから。改めて、そんなことを記しておく。場はあるから。まあここまで書いて何だが、ぐちゃぐちゃ考えないで、ばーって、がーって、やってくれたら嬉しい。舞台の上で会いたい人がたくさんいる。あるいは稽古場で。もちろん、まだ見ぬ未知の方との邂逅にも胸が膨らむ。やろう。

ちなみに、面倒くさいことをやった時に心に沸き起こる気持ちが、自分を救うことも多いって思う。面倒くさいことをやるのが自信みたいのを育てて、より一歩先へ進めたり。だから、面倒くせーな、が合図だと思って動いてみてもいいかも、と。

たぶん、今演劇をやることは、今までより多く他人に迷惑の掛かることだから、という意見が、この話を論破できると気づいている。それは正しい。対策って、工夫しても、工夫しても、それは完璧じゃないから、っていうのは間違いではない。もう少し待とう、って意見に反対なわけではない。ただ、工夫しても、工夫しても、それは完璧じゃない「なら」って思ってしまう声もあるからと。矛盾するようだが、もう少し待とう、と、演劇やろう、は自分の中で共存している。ただ、ただ、演劇やる人が、これをキッカケに撤退しないで欲しいなって、そう思っている。

長堀